[成果情報名] モモにおける合成ピレスロイド剤に感受性が低下したモモハモグリガ個体群の出現と有効な薬剤

[要約]モモを加害するモモハモグリガには、合成ピレスロイド剤に感受性の低下した個体群が存在しており、この個体群に対してはアセタミプリド水溶剤、DMTP水和剤、イミダクロプリドフロアブルの殺虫効果は高い。

[キーワード] モモハモグリガ、モモ、薬剤感受性、有効薬剤

[担当]長崎果樹試・病害虫科

[連絡先]電話 0957-55-8740、電子メール s00660@pref.nagasaki.lg.jp

[区分]果樹

「分類〕指導

## [背景・ねらい]

施設栽培モモで防除薬剤が散布されたにもかかわらず、いずれの薬剤も効果が低くモモハモグリガが多発生し、異常落葉した事例がある。そこでモモハモグリガの薬剤感受性を調査し、有効な薬剤を明らかにする。

#### [成果の内容・特徴]

- 1.長崎県のモモハモグリガの中には、合成ピレスロイド剤に感受性の低下したモモハモグリガ個体群が存在している(表1、表2、表3)。
- 2.薬剤によるモモハモグリガの防除は、幼虫の齢期が高いと殺虫効果が低いため、若齢期に行う必要がある(表1)。
- 3. モモハモグリガに対し殺虫効果の高い薬剤はアセタミプリド水溶剤、DMTP水和剤、 イミダクロプリドフロアブルなどである(表1)。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1. モモのモモハモグリガに対する農薬登録は平成 17年2月20日現在である。
- 2. さらなる感受性低下個体群の発生を防止するため、薬剤散布は使用基準を遵守し、ローテーション散布を行う。

# [具体的データ]

表1 モモハモグリガ幼虫の死虫率(補正)

供試薬剤	濃度	1 ~ 2	齢幼虫	2~3龄幼虫		
	(倍)	24時間後	72時間後	24時間	引後 72時間後	
MEP乳剤	1000	14.2%	15.3%	15.0	3 90.9	
DMTP水和剤	1500	90.9	100	77.3		
アラニカルブ水和剤	1000	19.9	22.1	6.9	6.9	
ペルメトリン乳剤	2000	41.4	43.4	7.0		
フルフェノクスロン乳剤	2000	38.4	40.7	4.7		
イミダクロプリドフロアブル	5000	69.2	73.3	13.7	1 24.1	
チアメトキサム顆粒水溶剤	2000	44.0	47.3	26.7		
アセタミプリド水溶剤	2000	100	100	52.5	5 68.2	
無処理		0	0	0	0	

表2 モモハモグリガに対する薬剤の防除効果(1994年5~7月試験)<sup>2</sup>

供試薬剤	濃度	被害葉率(%)				
	(倍)	散布前	30日後	48日後	58日後	
イミタ゛クロプリト゛水和剤 ペルメトリン乳剤 無処理	1000 2000	5.7 5.7 6.1	3.4 2.7 42.4	1.1 0.4 56.1	0 0 59.0	

<sup>2</sup>散布は5月10日、6月9日、6月27日の3回

表3 モモハモグリガゼに対する薬剤の防除効果(2002年7月試験)ッ

供試薬剤	濃度	被害葉率(%)				
	(倍)	散布前	7日後	14日後	21日後	
DMTP水和剤 フルパ・リネート水和剤 イミタ・クロフ・リト・フロアフ・ル シ・ノテフラン顆粒水溶剤 無処理	1500 2000 5000 2000	0 0 0 0	0.4 5.9 0.3 0.3	0.6 10.6 0.6 0.4 8.3	0.8 13.4 1.0 1.0	

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup>深江町から採集した個体群の次世代を供試、<sup>9</sup>散布は7月2日の1回

### [ その他]

研究課題名:落葉果樹の重要病害虫防除法

予算区分:委託 研究期間:2004年度 研究担当者:早田栄一郎